

## 課題の概要

- 課題名 「 自立・競争的環境で育てる若手研究者育成プログラム 」  
○総括責任者名 「 下条 文武 」  
○機関名 「 国立大学法人 新潟大学 」  
(実施予定期間： 平成21年度～平成25年度)

### 機関の現状

新潟大学は、日本海側に位置する総合大学として基礎的研究の基盤である研究環境を強化し、先端的研究の発芽・成長を促進するとともに、世界に価値ある創造的研究を推進している。「脳神経病理学研究教育拠点形成」として21世紀COEプログラムに採択され、世界最高水準の脳神経病理学の国際的拠点形成を図っている。また、卓越した研究教育拠点として、超域研究機構、学系プロジェクト、戦略的教育・研究プロジェクト、コア・ステーション、災害復興科学センター等が活発に活動している。外部資金の獲得状況として、科学研究費補助金の採択は平成18～20年度で全国20位以内を維持し、その他の競争的外部資金の採択も多数受けている。さらに、学長裁量経費としてプロジェクト推進経費を措置し、特に若手研究者に対して重点的に配分を行うなど若手研究者育成に力を入れている。自然科学系では全学において教員定員の流動化を図り、医歯学系では教員全員を対象とした任期制を実施している。また、自然科学系では若手研究者の採用・育成を目指し、助教の任期制や独自のテニュア・トラック制度を導入する企画をしている。

### 人材養成システム改革・若手研究者育成の構想

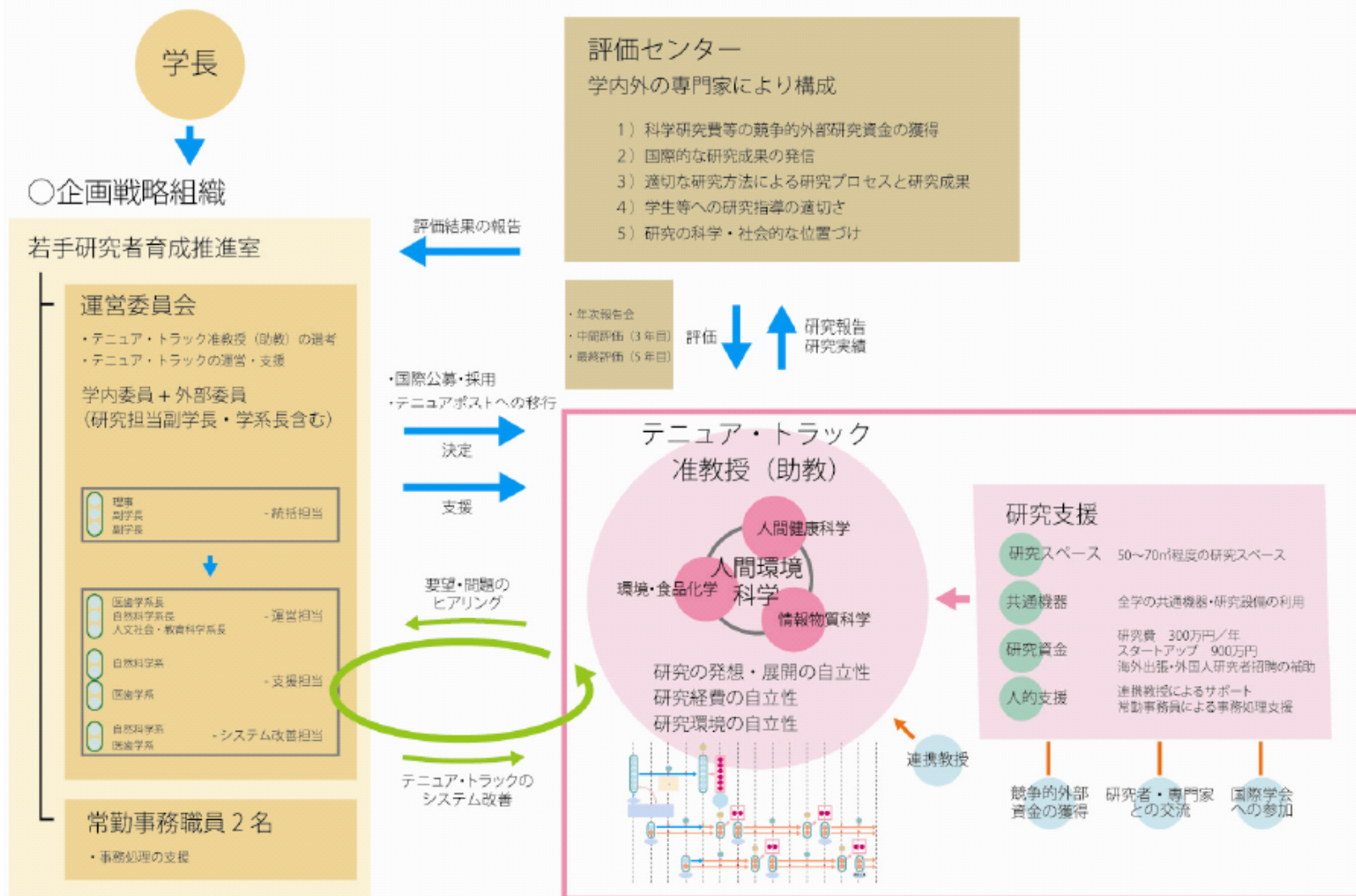
本学は、自然科学系の先端科学技術融合領域や医歯学系の脳神経・腎臓・骨格系など、人間環境科学分野で極めて優れた研究を行ってきている。本プログラムは、優秀な若手研究者（テニュア・トラック准教授/助教）を国際公募し、本学独自のテニュア・トラックと融合させるものである。若手研究者のマネジメント並びにテニュア・トラックの管理運営等を行うために、企画戦略組織（学長直属）の下に「若手研究者育成推進室」を設置する。若手研究者には、自立的な研究環境として、毎年300万円の研究費と初動期のスタートアップ経費900万円（600～1000万円）、研究支援のためにポストドクター1名の雇用経費を支給する。さらに、最低70㎡程度の研究スペース他、自立に向けたサポートとして連携教授による支援体制を構築する。大学独自のテニュアトラックを2年目から実施して、自然科学系と医歯学系が各2ポストを運用し、隔年で2名同時に継続的に採用することで若手研究者同士が協力・競争できる環境をつくる。テニュアトラックを運営支援する「若手研究者育成推進室」は、研究課題終了後の状況に合わせて組織内容を変更しつつ、若手研究者の支援体制として継続的に機能する。本プログラムの実施期間終了後は、採用された若手研究者間及びその連携教員間でコンソーシアムを形成することを目指す。

### ミッションステートメントの概要

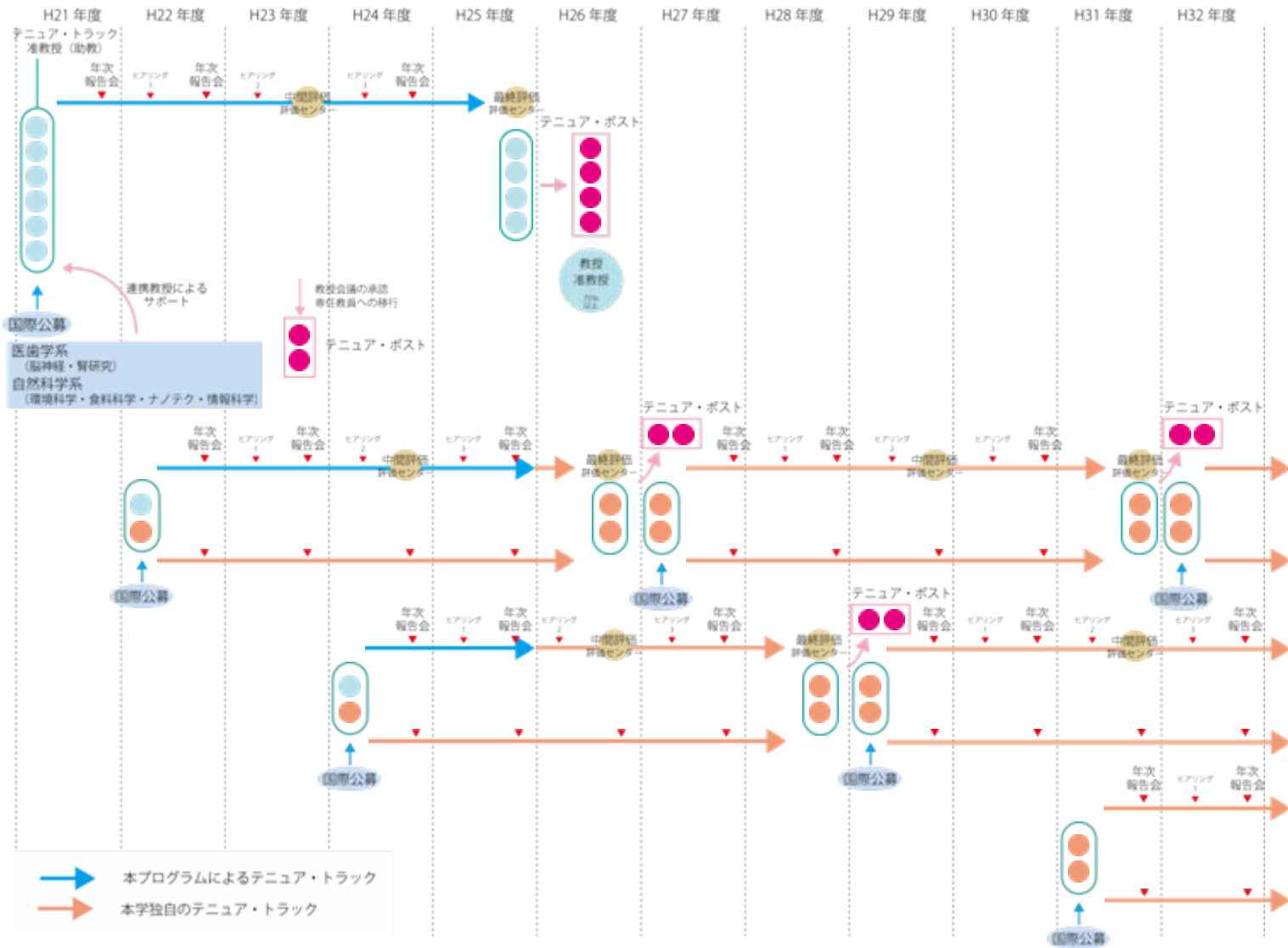
優秀な人材の獲得と若手研究者らの活性化を目指して、本学の特色ある優れた分野の研究を伸ばしつつ、新領域も開拓する。3年後には厳格な中間評価により、若手研究者6名のうち、特に優秀と認められた若手研究者については、専任の教授あるいは准教授へ移行させる。若手研究者の研究環境を支援し、所属する重点推進分野の展開も支援する。

5年目終了時では最終評価で一定の水準以上と評価された若手研究者には、各学系の専任教授または専任准教授への移行枠を確保する。移行率の目標は最低75%以上（4名以上；各学系専任教員への移行は各2名以上）とする。もちろん、6年後のテニュアポストは6名の学系定員を準備しており、100%移行できる体制にある。このテニュアトラックと平行して、2年目から大学独自の2名ずつのテニュア・トラックを自然科学系・医歯学系で運用開始して、文系を含めて全学への拡大を目指す。

# 自立・競争する環境で育てる若手研究者育成プログラム：実施体制



# 自立・競争する環境で育てる若手研究者育成プログラム:実施内容



## ミッションステートメント

### ○提案構想名

「自立・競争的環境で育てる若手研究者育成プログラム」

### ○総括責任者名

「下条 文武」

### ○提案機関名

「国立大学法人 新潟大学」

#### (1) 人材養成システム改革構想の概要

新潟大学における優れた研究である人間環境科学分野において、その周辺領域と融合的研究を可能とする若手研究者を境界領域に養成することが必須である。本提案は、本学独自のテニユア・トラックと融合させるものであり、自立的な研究を実施するため「若手研究者育成推進室」を設置し、連携教授を選定し、若手研究者同士が協力・競争する自立的な研究環境を作る。こうした取組は、革新的技術を持続的に創造するための知的基盤と後継者育成の環境整備が可能となり、地方中核的総合大学院大学における教員の人材養成システム改革の先導モデルとなるものであり、周辺地域の各大学にも波及し、教育研究のレベルアップに大きく貢献する。

#### (2) 3年目における具体的な目標

1年目は6名を採用するが、2年目から大学独自のテニユア・トラックを本プログラムと併存させて運用し2名のテニユア・トラック准教授（助教）を採用する。医歯学系，自然科学系がそれぞれ1名ずつのテニユア・トラック准教授（助教）の採用を行い，3年目終了時には全体で8名のテニユア・トラック准教授（助教）が，新しい研究環境で新領域の研究に向かっていることを計画している。

初年度からスタートした6名は中間評価を受け，それぞれの研究についての検討，残り期間での努力目標を明示する。中間評価時に評価が低かった研究者は，本人から残余期間の研究計画の再考と方向性の修正を求め，特に優秀と認められたテニユア・トラック准教授（助教）は，専任の教授あるいは准教授へ移行させることも可能とする。

#### (3) 実施期間終了時における具体的な目標

4年目（平成24年度）には，2年目に運用を開始した2名のテニユア・トラックと同規模の2名のテニユア・トラックでの採用を行う。大学独自のテニユア・トラックと本プログラムによるテニユア・トラックとを合わせたもので，5年目（平成25年度）には10名のテニユア・トラック准教授（助教）が採用されている計画である。

最初の6名については最終評価が行われて，一定の水準以上と評価された者には，各学系の専任准教授または専任教授への移行を確保し，優秀な若手研究者を移行させることを目指して，移行の目標を75%以上とする。6年後に大学独自のテニユア・トラックで採用されるテニユア・トラック准教授（助教）には，本プログラムと同様の条件を付与するものとする。

#### (4) 実施期間終了後の取組

「若手研究者育成推進室」の立ち上げとリンクして，テニユア・トラック制度を検討する委員会を設定し，本「若手研究者育成推進室」の評価と大学独自経費によるテニユア・トラック制の導入・実施を策定・評価する。本「若手研究者育成推進室」の利点・問題点を評価しながら，積極的な人事改革を検討していく。

6年後のテニユア・トラックでは，平成22年と平成24年から始まる大学独自のポストによるものと，本プログラムによるテニユア・トラックを大学独自のポストへの移行を受けて，

4名で2系統のテニユア・トラックが持続的に運営される。6年後に大学独自のテニユア・トラックで採用されるテニユア・トラック准教授（助教）には、本プログラムと同様の条件を付与する。

(5) 期待される波及効果

本テニユア・トラックは、隔年で2名ずつの若手研究者をペアで採用するもので、他大学のシステムとは異なった特徴を持っている。すなわち、研究環境の構築やテニユア・トラックへの対応について若手研究者自身が協力体制をとれる、若手研究者が競争的な関係を維持し研究の推力を得られる、準備する学系のテニユア・ポストの状況で同じ年度に同時に必要となる2ポストへの対応を可能にする等、特徴的な仕組みをもつ。若手研究者の研究環境構築への配慮・支援と大学の研究機関としての必要とを同時に満たす仕組みとして、他大学・研究機関で試行するテニユア・トラックのモデルの一つになるとともに、新潟大学方式のテニユア・トラックとして若手研究者に魅力的な研究環境を提供できるものである。

また、本学の計画する特徴的なテニユア・トラック教員制度の導入は、本学全構成員への人材養成・評価のモデルになるとともに、周辺地域の各大学にも波及し教育研究のレベルアップに大きく貢献することが期待される。